

校長通信

東京都立戸山高等学校

校長 布施 洋一

生徒研究成果合同発表会（TSS）

2月4日（日）、第6回生徒研究成果合同発表会（Toyama Science Symposium＝TSS）が行われました。

TSSは、戸山高校が主催するスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の研究発表会で、毎年2月の第一日曜日に行っています。1・2年生のSSHクラスの生徒約160名が、物理・化学・生物・地学・数学の5つのコースに分かれ、自ら決めたテーマに基づいて行ってきた研究活動の成果をポスターにまとめたり、口頭（英語を含む）により発表します。本校のTSSには以下の3つの特色があります。

- ① 本校生徒のみならず、理数に関する研究を行っている全国の高校生に広く発表の場を提供する。
- ② 一つのポスター発表に対して複数の専門家から助言をもらえるようにする。
- ③ 国際的な場での発表を想定した発表会場を設け、ネイティブスピーカー等に英語で発表する機会を設ける。

TSSの参加校数は年々増加しています。今年の参加校は本校を含む全国の国公立高校等36校、その中にはSSH指定校ではない高校等や、本校のSSHクラスの生徒が児童の自由研究のお手伝いをする等の連携をしている近隣の小学校、テレビ会議システムを使って参加してくれた海外の高校も含まれています。当日高校生等の発表に対して指導助言をいただいた専門家は39名で、大学や研究機関等で活躍する本校の卒業生にも多数ご協力いただいています。また、英語のネイティブスピーカーとして、本校のJET青年や、海外研修のプログラムを共同開発している関係機関等にもご協力をいただきました。

今年度初めて実施したのが、リアルタイムオンラインシンポジウムです。これは、時差の少ないアジア・オセアニア地域の高校生同士が、テレビ会議システムを利用することにより、リアルタイムで口頭発表や質疑応答を行うものです。海外からの参加校はカンボジア（3校）とフィリピン・オーストラリア・韓国（各1校）、日本からは本校のほか都立高校1校と熊本県の県立高校（共にSSH指定校）が参加しました。初めての試みなので、システムの使用方法等に習熟しておらず、思うようにいかない場面もありましたが、相手側の音声ははっきり聞き取ることができ、海外と日本の高校生が英語でやり取りする場面も見られました。今後もこのような機会を定期的に設定することで、異なる国の高校生同士の共同研究等に繋げていければと思います。

TSSの規模の拡大に伴い、生徒の研究発表のレベルは着実に上がっています。本校の卒業生で、日本学術振興会理事の家泰弘先生（東京大学名誉教授）からは、「初回の頃は高校生の研究ということでこちらも多少遠慮しながら助言していたが、今では研究内容も発表のレベルも格段に上がり、研究者を相手にするのと同じ感覚で問題点を指摘したり更なる研究への助言ができるようになった。」とのコメントをいただきました。

次期学習指導要領では、育成を目指す資質・能力の三つの柱として「知識・技能」と共に「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性等」が示されました。そこでのキーワードは「探究」です。本校では「知の探究」という学校設定科目を立ち上げ、全校体制・全員体制のもと、SSHクラス以外のクラスにおいても探究を重視した教育活動を展開していきます。国際社会に貢献するトップリーダーを目指す戸山生には、学力の3要素（①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）をバランスよく身に付けてほしいと思っています。